

ある あら はっ けん
まちを歩けば新たな発見?!

日本のまちいろいろ



城下町

じょうかまち

地いきをおさめる人が住む城(しろ)を中心に発つした町。身分や仕事などによって住む所が分かれていた。



門前町

もんぜんまち

有名な神社や寺を中心に発つした町。おまいりする人が多くおとずれるため、宿や商店が集まりにぎわった。



宿場町

しゅくばまち

街道(かいどう)とよばれる大きな道ぞいにできた町。宿や商店、荷物を運ぶためのしせつがあった。



港町

みなとまち

ぎょ業や、船で荷物を運ぶのにべんりな港や川岸にできた町。荷物をほかんするそう庫や蔵(くら)があった。



都

みやこ

天皇(てんのう)の住まいがある土地や、国をおさめる人たちがはたらく場所がある所を指す。



温泉地

おんせんち

数多くの温泉が集まっている地いきのこと。かん光や体の悪い所をなおす目てきて多くのおとずれる。



里地里山

さとちさとやま

山林や集落、田畑やため池などからなる地いき。自ぜんのめぐみをり用した生活がいとなまれてきた。



ベッドタウン

べっどたうん

大都市ではたらく人たちの住たく地を中心に発つした町。大都市のまわりであり、鉄道でおすばれている。



中世

ちゅうせい

れきしの流れをいくつかに分けたうちの一つ。日本では鎌倉(かまくら)～室町(むろまち)時代ごろ。

1 楽市・楽座

らくいち・らくざ

大名(だいみょう)が、町をはんえいさせるために行ったせいさく。商人が自由に商売できるようにした。

2 町奉行所

まちぶぎょうしょ

決まりにしたがって町をおさめ、あらい事のかい決や、けいさつなどの仕事をしている場所。

3 庭園

ていえん

城(しろ)に住む人が、力があることをしめすために作った庭。木や池、石などがおかれ美しく整えられた。

4 武家地

ぶけち

武士(ぶし)が住んでいた所。城(しろ)に近い場所にあった。

5 制札

せいさつ

やってはいけない事や決まり事を板に書いて立てたもの。人々に広く知らせるため、道ばたなどに立てられた。

商業

しょうぎょう

物売り買ひしてもうけを出す仕事。商業が活発になると人や物、お金が集まるため、国の力が上がる。

防衛

ぼうえい

てきのこうげきをふせぎ、守るここと。

城下町

《じょうかまち》

中世～

城下町は主に、領主(りょうしゅ)の住まいとなる城郭(じょうかく)を中心に、武家地(ぶけち)、町人地(ちやうにんち)、寺社地(ていしやち)といった4つのエリアで構成されています。それぞれ身分(身分)や職種(しやうしや)などに合わせて集積(しじく)しており、各境界(さかき)はごうや堀(ほり)などによって分けられているのも特徴(ていしや)です。

バランスよく機能が守って治めて商売する

3つの役わりが

《しょうぎょう》
商業
近世(きんせい)に入ると領地(りやうち)の取り合いから貨幣(かへい)経済(けいぎ)へと移行(いりか)していきます。商人(しょうにん)による経済(けいぎ)活動(かつどう)によって城下(じょうか)にぎわい、商業(しょうぎ)は国力(こくりき)を上げるために不可欠(ふかた)となりました。

1 楽市・楽座
16世紀後半、織田信長(おだののぶなが)などが城下町(じょうかまち)のはんえいを目的(てき)として発布(はつぷ)した経済政策(けいぎせいさく)。

2 町奉行所
本「座」で「成を守るんだ！」

3 庭園

4 武家地

5 制札
禁止事項(きんしじきやう)や決まり事(けいまりじ)などを書いて道ばた(みちばた)などに立て、周知(しゆち)を促(うなが)すもの。

12 城の防衛
城(じやう)かくは本丸(ほんまる)の天守閣(てんしゆかく)を中心に、外側(がいせ)に向けて二の丸(にのまる)、三の丸(さんまる)と配置(ちやうそく)されています。寺社地(ていしやち)の多くは防衛上(ぼうえいじやう)の前線(ぜんせん)、城下町(じょうかまち)の内と外の境界(さかき)に集中的(しゆんじやく)に配置(ちやうそく)されています。

11 天守閣
城(じやう)の中心(ちゆうしん)にある一番高い部分(ぶぶん)。まわりがよく見えるため、てきの様子をさぐるために使(もち)われた。

10 町奉行
江戸(えど)時代の役(やく)しよくの一つ。町(まち)をおさめ、あらい事(じ)のかい決(けい)や、けいさつなどの仕事(しごと)を行った。

9 与力
武士(ぶし)の役人(やくにん)で、町奉行(まちぶぎょう)の仕事(しごと)を助(たす)けていた。

8 町役人
町人(ちやうにん)の代表(だいひやく)。町奉行(まちぶぎょう)の下(した)で人々(ひとびと)のくらしにかかわる仕事(しごと)をしていた。

7 司法
決まりにしたがって、あらい事(じ)をかき決(けい)したり、悪い事(わるいじ)をした人(ひと)をさばいたりすること。

6 寺社地
神社(しんじや)や寺(てい)が集ま(あ)っている所(ところ)。てきのこうげきから町(まち)を守るため、町(まち)の一番外(いちばんぐわい)がわ(がわ)におかれることが多(おほ)かった。

5 制札
禁止事項(きんしじきやう)や決まり事(けいまりじ)などを書いて道ばた(みちばた)などに立て、周知(しゆち)を促(うなが)すもの。

4 武家地
お店(みせ)もにぎわ(にぎわ)ってるわ

3 庭園
ふる「ほど」なる「ほど」

2 町奉行所
お店(みせ)もにぎわ(にぎわ)ってるわ

1 楽市・楽座
お店(みせ)もにぎわ(にぎわ)ってるわ

城下町の役割
12 城の防衛

城下町の役割
9 行政

全国各地の城下町	
秋田市	P39
米沢市	P41
水戸市	P47
甲府市	P71
名古屋	P79
鳥取市	P99
萩市	P107
徳島市	P111
高松市	P113
唐津市	P123
熊本市	P127
鹿児島市	P133
那覇市	P135

陣屋町
その地域の行政(ぎやう)の中心(ちゆうしん)として、陣屋(じんや)や代官所(だい官所)が置(お)かれた町(まち)を指(さ)している。



もっと詳しく! 城下町

行政

ぎやうせい

町(まち)に住む人々(ひとびと)が安心して生活(せいかつ)できるよう、役人(やくにん)がくらしにかかわる様々な仕事(しごと)を取り仕切(と)ること。

12 本丸

ほんまる

城(しろ)の中心(ちゆうしん)で、一番大事(だいじ)な部分(ぶぶん)。上に天守閣(てんしゆかく)がある。

11 天守閣

てんしゆかく

城(しろ)の中心(ちゆうしん)にある一番高い部分(ぶぶん)。まわりがよく見えるため、てきの様子をさぐるために使(もち)われた。

10 町奉行

まちぶぎょう

江戸(えど)時代の役(やく)しよくの一つ。町(まち)をおさめ、あらい事(じ)のかい決(けい)や、けいさつなどの仕事(しごと)を行った。

9 与力

よりき

武士(ぶし)の役人(やくにん)で、町奉行(まちぶぎょう)の仕事(しごと)を助(たす)けていた。

8 町役人

まちやくにん

町人(ちやうにん)の代表(だいひやく)。町奉行(まちぶぎょう)の下(した)で人々(ひとびと)のくらしにかかわる仕事(しごと)をしていた。

7 司法

しほう

決まりにしたがって、あらい事(じ)をかき決(けい)したり、悪い事(わるいじ)をした人(ひと)をさばいたりすること。

6 寺社地

じしやち

神社(しんじや)や寺(てい)が集ま(あ)っている所(ところ)。てきのこうげきから町(まち)を守るため、町(まち)の一番外(いちばんぐわい)がわ(がわ)におかれることが多(おほ)かった。

平安時代

へいあんじだい

今の京都市に平安京(へいあんきょう)とよばれる都がおかれていた時代のこと。794~1185年のやく400年間。

1 神社仏閣

じんじゃぶつかく
神社と寺のこと。

2 宿坊

しゆくぼう
神社や寺におまいりする人のための宿。

3 街道

かいどう
都市と都市をむすぶ大きな道。旅をする人や荷物を運ぶ人などが行き来した。

4 神官・神職

しんかん・しんしよく
神社で神をまつる行事をとり行う人のこと。

5 布教活動

ふきょうかつどう
しんじているしゅう教を、たくさんの人に広めるための活動のこと。

6 庶民

しよみん
とくべつな身分ではなく、ふつうにくらしている人々のこと。

7 寺内町

じないまち
寺を中心にできた町。町のことを自分たちで決めて運えいしていた。町を守るため、ほりや土のていぼうでまわりをかこんでいた。

8 浄土真宗

じょうどしんしゅう
仏教(ぶつぎょう)の一つで、鎌倉(かまくら)時代に親鸞(しんらん)というおぼうさんが始めた。

9 自治集落

じちしゅうらく
地いきで大きな力を持つ人のさしずではなく、くらしにかかわる事を自分たちで決めていた集落のこと。

10 鳥居前町

とりいまえまち
神社の鳥居(とりい)の前にあり、神社を中心として発つた町のこと。

11 町屋

まちや
店と住まいをかねた家。人通りの多い道ぞいにたてられることが多かった。

門前町

《もんぜんまち》

中世~

1 有名な神社仏閣への参詣客をむかえ入れるまちとして発展しました。参道があり、その参道沿いには参詣客を相手にする宿坊や商店、工商業者が集まっています。多くは主要な街道とつながっており、参道沿いに神官などの屋敷があるのもポイントです。

門前町の役割

2 巡礼

5 平安時代に始まった巡礼は、室町時代になると布教活動の一つとして広がりました。江戸時代には行楽的な側面も持ち合わせ、庶民にも広まったのです。

3

6

7 寺内町

8 浄土真宗の中心にあり、浄土真宗の中心として発展した町のこと。

9

10 鳥居前町

11 町屋

4

12 参道

13 職人

14 商人

15 参詣客

16 僧侶

17 信徒

18 物見遊山

19 庶民の信仰の旅を充実させる

20 参道沿いのにぎわいが鍵

21 参道

22 参詣客

23 参道

24 参詣客

25 参道

26 参詣客

27 参道

28 参詣客

29 参道

30 参詣客

31 参道

32 参詣客

33 参道

34 参詣客

35 参道

36 参詣客

37 参道

38 参詣客

39 参道

40 参詣客

41 参道

42 参詣客

43 参道

44 参詣客

45 参道

46 参詣客

47 参道

48 参詣客

49 参道

50 参詣客

51 参道

52 参詣客

53 参道

54 参詣客

55 参道

56 参詣客

57 参道

58 参詣客

59 参道

60 参詣客

61 参道

62 参詣客

63 参道

64 参詣客

65 参道

66 参詣客

67 参道

68 参詣客

69 参道

70 参詣客

71 参道

72 参詣客

73 参道

74 参詣客

75 参道

76 参詣客

77 参道

78 参詣客

79 参道

80 参詣客

81 参道

82 参詣客

83 参道

84 参詣客

85 参道

86 参詣客

87 参道

88 参詣客

89 参道

90 参詣客

91 参道

92 参詣客

93 参道

94 参詣客

95 参道

96 参詣客

97 参道

98 参詣客

99 参道

100 参詣客

物見遊山

ものみゆさん

いろいろな場所を見物したり遊びに行ったりすること。

門前町の役割

物見遊山

巡礼の旅から物見遊山の旅行へと人々の行動にも変化が起き、その変化とともに門前も発達しました。人々は社寺の参詣と行楽を同時に楽しんだそうです。

参道沿いのにぎわいが鍵

参道沿いのにぎわいが鍵

庶民の信仰の旅を充実させる

庶民の信仰の旅を充実させる

全国の門前町	
日光市	P49
永平寺町	P69
伊勢市	P83
高野山	P95
出雲市	P101
宮島	P105
太宰府市	P121
高千穂町	P131



近世

きんせい

れきしの流れをいくつかに分けたうちの一つ。日本では安土桃山(あづちももやま)~江戸(えど)時代ごろ。

1 宿駅伝馬制度

しゆくえきてんませいど

手紙や荷物を運ぶためのしくみ。宿場(しゆくば)ごとに人と馬を交代させてリレーのように運んでいった。

2 幕府

ばくふ

将軍(しょうぐん)を中心とした、武士(ぶし)のそしき。国の大事なことが、ここで決められていた。

3 藩

はん

大名(だいまよう)がおさめていたりょう地のこと。

宿場町

《しゆくばまち》

中世~

中世から近世において、主要な街道沿いに発達し、江戸時代には幕府や藩によって公式に認定されたまちの一つです。人々や物資の往来を支えた街道沿いには、参勤交代の大名一行などが泊まる宿泊施設、荷物の運送を担う問屋などが立ち並んでいます。

1 宿駅伝馬制度
宿場(宿駅)ごとに人と馬を交代して(伝馬制)公用の書状や荷物を運ぶ制度のこと。

茶屋・商店

旅人

5 大名

宿場町の役割

継ぎ送り

大名などが宿場を利用する際に、人や馬を使って彼らの荷物を次の宿場まで運んでいました。宿場ごとに人や馬を用意し、継ぎ立ての役割を果たしていました。

4 五街道

日本橋を起点にのびる東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道を五街道と呼ぶ。

幕府や藩が認めた！
都市間を結ぶ街道沿いが
発達してにぎわった

11 宿場

10 問屋

7 本陣・脇本陣

宿場町には、天皇のおつかいである勅使や、公家、大名などが宿泊する本陣と脇本陣があります。本陣は、宿泊施設の中でもっとも権威のあるものとされていました。

9 参勤交代

参勤交代
江戸時代、全国の大名が一定期間交替で江戸に参勤した制度。大名統制策の一つ。

全国各地の宿場町
大内宿 P43
奈良井宿 P73
馬籠宿 P75
大津市 P85



継ぎ送り

つぎおくり

かく地におかれた宿場(しゆくば)ごとに人と馬を交代させて、リレーのように荷物を運ぶこと。

4 五街道

ごかいどう

江戸(えど)の日本橋から、かく地に向かう5つの大きな道のこと。

5 大名

だいまよう

江戸(えど)時代、将軍(しょうぐん)につかえて、それぞれの土地をおさめていた人。

6 公家

くげ

朝廷(ちやうてい)とよばれる、天皇(てんのう)を中心にしていじを行っていた所ではたらいていた役人。

11 宿場

しゆくば

旅人のための宿や茶屋、手紙や荷物を運ぶためのしせつがあった所。大きな道ぞいの大事な場所にあった。

10 問屋

とんや

人や馬を用意し、手紙や荷物を運ぶ仕事をしていた所。

9 参勤交代

さんきんこうたい

江戸(えど)時代の決まり。大名(だいまよう)は1年おきに江戸と自分の国を行き来しなければならなかった。

8 脇本陣

わきほんじん

宿はくする人が多く、本陣(ほんじん)だけでは足りない場合に使われたよびの宿。

7 本陣

ほんじん

天皇(てんのう)の使いや大名(だいまよう)、公家(くげ)などがとまった宿。

古代
こだい

れきしの流れをいくつかに分けたうちの一つ。日本では奈良(なら)~平安(へいあん)時代ごろ。

弥生時代
やよいじだい

今から2300~1700年前くらいの時代のこと。米づくりが始まった。

室町時代
むろまちじだい

室町幕府(むろまちばくふ)が開かれてからほろぶまでの時代のこと。1336~1573年のやく240年間。

港町
《みなとまち》

1 古代~
港湾や河岸にできた商業集落または都市のことで、流通機能を持った水陸交通の拠点集落を指します。古代の大輪田泊が有名ですが、港町は中世に入って年貢物の積出しや保管、販売などによって発展しました。港町に沿って倉庫や蔵があります。



内外交易
ないがいこうえき

品物と品物を交かんして取り引きすること。国内だけではなく、中国など他の国との取り引きも行われていた。

8 日米修好通商条約
にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく

1858年、日本とアメリカの間で結ばれた条約。これにより領内5つの開港が実現した。



全国の港町

函館市	P31
八戸市	P33
石巻市	P37
銚子市	P55
富山市	P65
神戸市	P91
倉敷市	P103
土佐清水市	P117
長崎市	P125

1 河岸
かし
川の岸に船をつけて、荷物をつんだり下ろしたりした所。

2 拠点集落
きょてんしゅうらく
じゅうような場所にあった集落のこと。

3 年貢物
ねんぐもの
地いきをおさめる人が、人々から取り立てていたもの。主に米がおさめられていた。

4 荷置場
におきば
荷物を置いておくための場所。

5 納屋衆
なやしゅう
海岸にそう庫を持っていた商人。荷物をほかんしたい人にかけて、もうけを出していた。

物資輸送
ぶつしゅうそう

品物や物を作るためのざいりょうを、ひつような場所へ運ぶこと。

11 問丸
といまる
港の近くに住み、船で荷物を運んだり、そう庫に荷物をほかんしたりする仕事をしている人。

10 荷揚場
にあげば
船で運んできた荷物を、りくにあげるための場所。

9 店舗
てんぽ
商品を売る店のこと。

8 日米修好通商条約
にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく
1858年にむすばれた日本とアメリカの間の取り決め。日本は5つの港を開いてぼうえきをすることになった。

7 寄港地
きこうち
目てき地に行くときちゅうておとずれる港のこと。

6 舟運
しゅううん
舟を使って荷物を運ぶこと。

都道府県おでかけ図鑑

1 遷都

せんと
都を他の場所へうつすこと。日本では天皇(てんのう)が住む場所をうつす時に使われた。

都

《みやこ》

古代～

天皇や幕府など
権力のありかとして機能



全国各地の都	
東京23区	P57
鎌倉市	P59
京都市	P87
大阪市	P89
奈良市	P93

都の役割

首都

その国の政治や行政といった統治機関がある場所。政治だけでなく経済や交通、文化、教育などの中心的機能が集まっています。

1 遷都

日本では天皇が住む場所を正式に移すことに伴って使われ、幕府の間際には使われない。

もっと詳しく! 都



日本の遷都や政治の所在地

日本では天皇と政治的権力が同じ場所であった時期と、天皇と政治的権力の所在地が分かれている時期があります。時代によって変わる都の場所を確認しましょう。

湯治

とうじ

温せん地にしばらくとどまり、温せんに入って病気をなおしたり、体の調子を整えたりすること。

癒しスポット

愛された

古代の人々にも

温泉地の役割

湯治

温泉地に滞在して病気を治したり体を整えたりすること。街道が整備された江戸時代以降には湯治が一般的になりました。

全国各地の温泉地	
草津町	P51
熱海市	P77
松山市	P115
別府市	P129



2 観光

古代～

温泉地

《おんせんち》

温泉は歴史的な読みものにも登場し、古くから人々が利用していた記録が残されています。江戸時代以降には医学的な活用が増え、実用的・実益的なものとなりました。

もっと詳しく!

温泉地



首都

しゅと

天皇(てんのう)が住んでいたり、せいじが行われたりするなど、国の中心となる都市のこと。



都道府県おでかけ図鑑

1 二次林

にじりん
たくさん木を切り出すなど、人によってうしなわれた林が、自ぜんにさい生したもの。

2 農地

のうち
田や畑など、農作物を育てるための土地のこと。

3 ため池

ためいけ
雨が少ない地いきで、農業用の水をためておくために作られた池。

萌芽更新

ほうがこうしん

木を切って、切りかぶからわかいくきや葉をたくさん出させることによって、林をわか返らせること。

里地里山

《 さとちさとやま 》

原始的な自然と都市の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、農地、ため池、草原などがあります。人々が自然と寄りそいながら作られた環境です。

原始時代～

生物多様性

多様な自然環境のなかには、様々な動植物が生息・生育している。

全国各地の里地里山
長野市……P35
佐渡市……P63
能登町……P67

もっと詳しく！
里地里山
QRコード

希少な日本の原風景
1 長い年月をかけてつくられた



里地里山の役割

萌芽更新

里地里山の中心となる二次林。人の手を加えて木を伐採して芽吹かせる「萌芽更新」により、林全体が若返ります。

集落

4 郊外

4



全国各地のベッドタウン
さいたま市……P53

大都市の発展を支え、栄えた郊外のまち

5 ドーナツ化現象

都市の人口が郊外の都市の人口が増える現象。現在は都市回帰が進んでいる。

通勤・通学

大都市へ通勤・通学している住民が多いのが持ちよう。鉄道の路線も充実しており、通勤時間帯は列車の運行本数も多めです。

もっと詳しく！
ベッドタウン
QRコード

ベッドタウン

近代～

大都市への通勤者が多く、日中は住民が都心へ出かけ、夜帰ってくることから名が付いたとされます。大規模な開発事業によって形成された地域が多くあります。

少子高齢化などの課題
住民の高齢化や住宅などの老朽化、使われなくなった小中学校など、課題もあります。まちを活性化させ、若い人たちの入居を増やす取り組みなどを調べてみましょう。





環境と技術が合わさった
ハイブリッドなまちが誕生

未来都市

1 《みらいとし》
環境保全や経済発展のために取り組んだり、

2 仮想空間と実在都市を相互で発展させるなど、
未来につながる新たなまちが續々誕生しています。



区が公認した
仮想空間の都市

バーチャル渋谷

デジタル空間上に「もう一つの渋谷」をつくり、
実在する渋谷とつなげた新しい文化を発信。
渋谷区公認のバーチャルシティです。



都心の真ん中に
ヒルズの未来形

麻布台ヒルズ

高低差の大きい地形や
細分化された敷地の問
題を解決し、道路や公
園なども整備。東京の
中心部に、緑に囲まれ
たまちが誕生します。

3 **SDGs未来都市**
2018年より、内閣府がSDGsの達成に向け
た取り組みを積極的に進める自治体を公募。
経済・社会・環境の3つの側面から優れた取り
組みを行う自治体を認定しています。

もっと詳しく!
未来都市



24

1 環境保全

かんきょうほぜん

地球温だん化など、人間の活動によ
って地球のかんきょうが悪くなるのを
ふせぐための取り組みのこと。

2 仮想空間

かそうくうかん

インターネット上に作られた場所。は
なれた場所にいる人どうしが交流した
り、様々な体けんができたりする。

3 SDGs

エスディーゼーズ

世界中の人々がこれからも安心してく
らしていけるよう立てられた17の目ひ
ょう。